

# ワーク・ライフ・バランス



## 芦屋市男女共同参画センター事業

### 一時保育つき 大人の読書タイム

- 毎月、2時間、ウィザスあしやでゆっくり本を読んでもみませんか。
- 日時：毎月第4月曜日(12月は第3月曜日) 午前10時～12時
- 会場：芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや
- 対象：子育て中の親(祖父母も含む)と子ども(2歳から就学前の幼児)
- 保育定員：子ども8人
- 一時保育料：1人につき300円
- 申込方法：毎月1日(休みのときは、翌開館日)から、電話あるいは窓口へ(先着順)。



tel.0797-38-2022 (予約電話)

「こんなことで…」と思わずに、まず、お電話を！相談は無料で、秘密は固く守られます。一回50分間の相談時間を確保し、専門の女性相談員がゆっくりとお話をうかがいます。相談は事前予約が必要です。上記の番号へお電話をください。  
※無料の一時保育あり(予約制)

相談	曜日	時間
女性の悩み相談	第1土曜日	①13:00
	第2～5金曜日	②14:00
暴力(DV)に関する相談	第1・3水曜日	③15:00
	第2・4金曜日	各50分

編集後記

震災後、気持が沈みがちであったが7月、FIFAワールドカップで「なでしこジャパン世界一」の嬉しいニュース。幼い頃(数十年前)サッカーは男性のスポーツ、まして、世界で大活躍など、想像もしなかった。今号の特集にも様々な分野へ女性が進出。選択肢が広がった時代にも拍手だ！(豊嶋)

# ウィザス No.67

平成23年9月発行

編集・発行 芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

〒659-0092 芦屋市大原町2-6 ラモール芦屋2階  
tel 0797-38-2023 fax 0797-38-2175  
E-mail josei-ce@city.ashiya.hyogo.jp

URL <http://www.city.ashiya.lg.jp/sankaku/withus/centerwithus.html>

■開館日・時間：平日(月～金)、第1土曜日 午前9時～午後5時30分  
■休館日：土曜日(第1をのぞく)、日曜日、祝日、振替休日、年末年始

## 平成23年度市民企画講座

### 絵本でえがお

絵本はね、言葉がはずみ、絵が語り、色があふれ、  
時が流れ、心が動く。そして、笑顔になるんだよ。

- 日時：平成23年9月8日、22日、10月6日、27日、11月10日、24日 各木曜日 午前10時～11時30分
- 対象：大人20人(子ども同伴可、部分聴講も可) 子育て中のかた、プレママ、プレパパ、妊婦さん、祖父母
- 一時保育：要予約。2歳から就学前の幼児。先着8人。1人1回につき300円。

### パパもいっしょに絵本であそぼう!! PART1・2

- 日時：PART1 10月22日(土) 10時～11時30分  
PART2 12月3日(土) 10時～11時30分
- 対象：0歳児から就学前の親子15組(プレママ、プレパパもどうぞ)

- 会場：芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや
- 参加料：無料
- 企画・運営：NPO法人「絵本で子育て」センター絵がお
- 申込方法：講座名「絵本でえがお」、または「パパもいっしょに」住所、氏名、電話(FAXも)番号、参加希望日、子ども同伴または一時保育希望のかたは子どもの名前、年齢(月齢も)を記入のうえ、電話・はがき・FAXまたは芦屋市男女共同参画センター窓口まで。各講座の前月15日から先着順。

## 平成23年度芦屋市男女共同参画センター講座

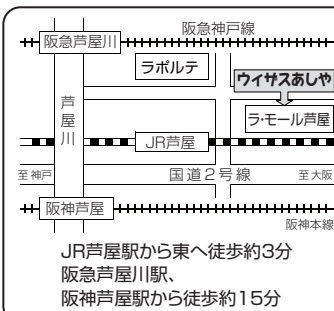
### 女性の視点で安心・安全の“護身術”

- 日時：平成23年9月30日(金) 午前10時～11時30分
- 講師：京師 美佳(防犯設備士・錠前師・トータル防犯アドバイザー)
- 対象：テーマに関心のある女性 30人
- 受講料：300円

### 仕事も子育ても！肩のこらない『ワーク・ライフ・バランス』のコツとは

- 日時：平成23年11月12日(土) 午前10時～11時30分
- 講師：上田 理恵子(㈱マザーネット 代表取締役)
- 対象：テーマに関心のあるかた 30人
- 受講料：無料(兵庫県共催事業)

- 会場：芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや
- 一時保育：要予約。2歳から就学前の幼児。1人300円。
- 申込方法：講座名「安心・安全」(9月1日受付開始)、または「ワーク・ライフ・バランス」(10月1日受付開始)住所、氏名、電話(FAXも)番号、一時保育希望の場合、子どもの名前、年齢(月齢も)を記入のうえ、電話・はがき・FAXまたは芦屋市男女共同参画センター窓口まで。



# ウィザス

「ウィザス」はウィズ・アス=with us  
“共に生きる—男女共生社会”  
の理念をあらわしています。

特集

## 意思決定の場へ参画するまで

### 女性ニュース ●●●結婚と年収—若者世代の結婚観をどうみるか

内閣府は6月、平成23年版「子ども・子育て白書」を発表しました。これによると、20代、30代の男女で将来結婚したいと考えている人は、男性は約83%、女性は約90%とそれぞれ高い割合となっています。結婚生活を送る上での不安については、男女とも半数以上が「経済的に十分な生活ができるかどうか」をあげ、結婚を考える上で経済的要因も見逃しません。

そんな中、男性の既婚率は所得が増えるにつれて上昇する傾向がわかりました。20代、30代の男性で既婚者(結婚3年以内)の割合を年収別にみると、300万円未満では8〜10%である一方、300万円以上では25%

〜40%となっており、300万円を境に大きな差がみられることがわかりました。(内閣府「結婚・家族形成に関する調査」2011年)

また、厚生労働省の「働く女性の実情」(2011年5月)によると、男女合計の雇用者数は5,462万人で、そのうち女性は2,329万人と42.6%で過去最高となりました。この上昇幅は、主に女性の非正規雇用が増えたことによりですが、働く女性は年々増えてきています。

働く女性が増えるようになった現在、女性も男性と同じ労働条件、給与水準で働くことができれば、従来の結婚観も変わるのではないのでしょうか。

